

夢相心兵衛胡蝶物語前編

五

~13  
3845  
5



門 へ 13  
號 3845  
卷 5

夢想兵衛胡蝶物語卷之五

東都

曲亭馬琴戲編



貪婪國

貪婪國魚のり。その名を饑と。饑の大慾。幾万八千の紙をくべ。  
化イ鳥とる。その名を恪鷄と。小鷄の慾。面厚と。幾千枚をくべ。  
飛とる。その名を重使の嬉の。その鳥や閑運と。則酔醒よ至る人と。  
酔醒ハ強飲の山る。各畚三千畝。上小搏して。貪る。九万鷹貸。  
小六ヶ月をりて。限と。野夫や甚六や。文盲の息をりて。相吹く。  
天の蒼と。それ天竺邪。その遠と。至る極る所。人邪。下より。全六  
木山の如し。と樂屋へ落と。莊子の故事。附道遙遊。よのうねども。女々  
勇氣の。ゆめのも。彼大鳥。は。生る。む。か。ど。さ。も。

東都目録

夢想兵衛ハ解醒山の母と云ふ。貪婪國の大悪者。怪鷲ハ搔去の毛。  
 轉ころふとれ。小人島こひとしまの同行どうぎょう。小吳せうごの穴あなのまてとて。いふるもな。雲うみを霞うらと  
 飛とぶ。行ゆよ。その怖おそさ苦くるしと。母ははよ。べきやうもなり。紙かみ老よ鷲じゆ。小糸せういて。困こまを直ただす。  
 試しまひ。いと。あつりて。そ。命いのちの死しめ。と。覚おぼえ。た。あ。も。今いまさ。ふ。異い  
 國くにへ。い。ろ。様さま。され。は。は。て。ま。る。漆屋しやくやの太郎たろう。あ。も。す。ま。さ。ど。最さい惜じやくと。い。て  
 氣きの。ち。か。山やま中ちゆう左さ。あ。つ。も。ら。ふ。か。ひ。寔まこと。よ。三寸息さんすんいき。絶たま。ば。萬まん。る。う。休やすみ。と。旅魂りょこん。今  
 夜や誰たれが。家いへ。小。落おち。ら。ん。と。あ。ふ。え。く。哀あはれ。ま。る。り。の。り。行ゆ。よ。各おの鷲じゆ。ハ。夢ゆめ想そう。兵へい衛ゑい  
 を。解とく。ま。海うみ上かみ。三さん千せん餘りよ里り。か。行ゆ。を。只ただ一ひと伸の。小せう飛と。り。貪おん婪らん國こくの。各おの番ばん。即すなは。守し。残ざん  
 城じやうと。い。ふ。都みやこの。兵へい。を。ろ。く。翔たか。ら。る。阿あ太た。次じ。計けい。梨りの。木きの。股また。へ。さ。う。さ。う。と。う。ち。あ。る。せ  
 ば。夢ゆめ想そう。兵へい衛ゑい。ハ。息いき。絶た。て。あ。が。生せい。死し。ハ。あ。ら。う。ら。う。あ。ら。れ。ど。も。あ。の。悪あく。者もの。物もの。惜おし  
 ぶ。か。ら。辭ことば。の。ま。は。ま。格かく。別べつ。は。後あと。も。滅めつ。ら。ぬ。よ。あ。の。あ。ら。物もの。と。い。は。く。と。啼な。へ。

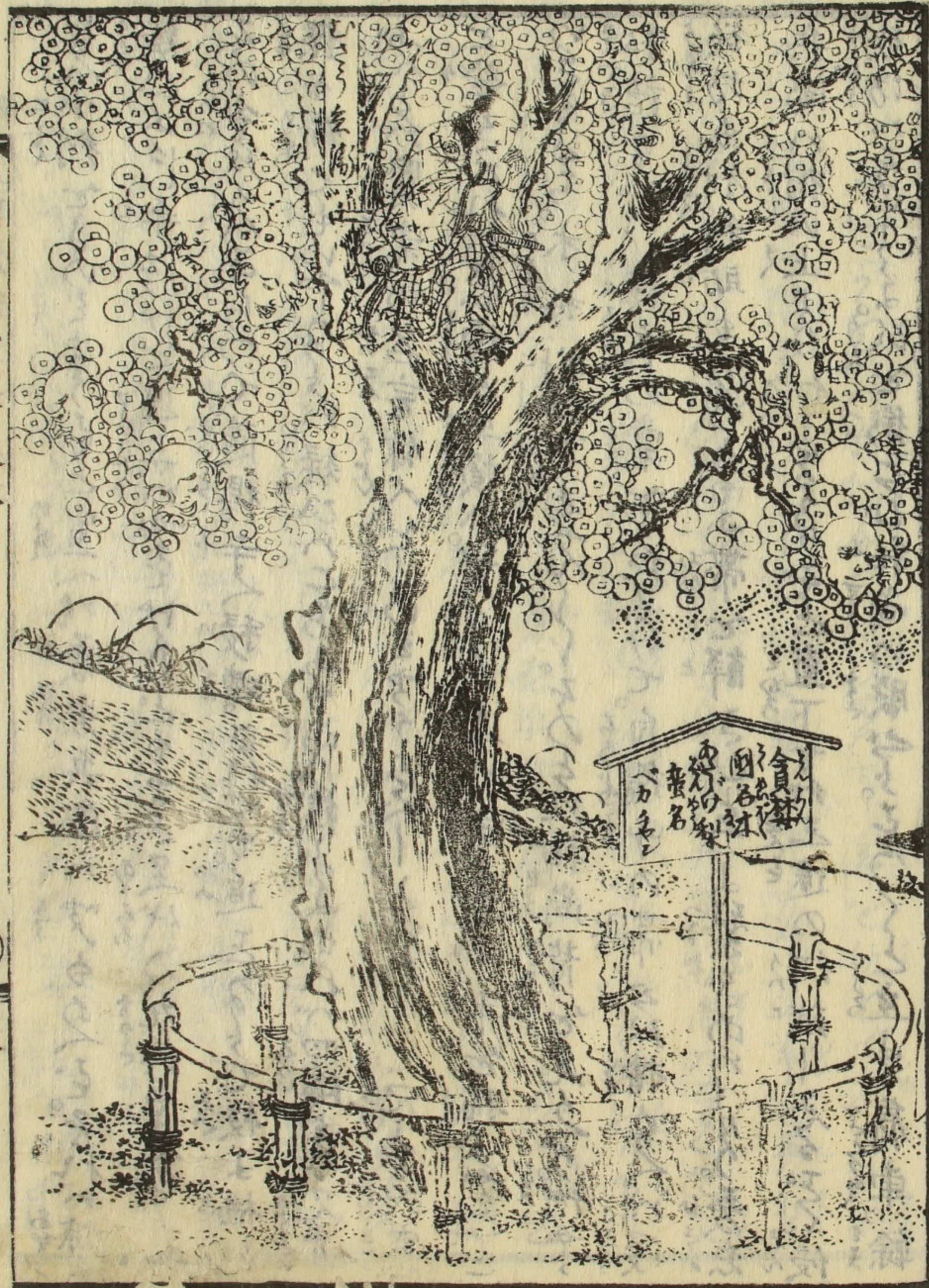
あまのハ憤いらいの。り。の。こ。是これ。ハ。あ。の。ま。あ。ま。ら。て。あ。ら。ん。と。い。ふ。さ。嘴くちばし。を。も。つ。け。ば。て。亦また  
 揮う。不ふ。と。飛と。去き。ぬ。ま。あ。ら。う。ら。う。と。夢ゆめ想そう。兵へい衛ゑい。ハ。半はん。响きやう。の。ま。り。あ。り。て。息いき。吹ふ。は。  
 へ。そ。い。ま。と。死し。ら。う。ら。う。の。と。ら。れ。し。と。飲のみ。び。る。が。ら。高たか。さ。楠くすのぎ。は。牙は。を。お。け。へ。木き  
 へ。ひ。り。ん。さ。う。も。の。く。十じゅう。方ほう。お。ま。さ。ら。お。し。の。れ。血ち。長なが。寺てらの。慈じ。海かい。和わ。尚しょう。を。ん  
 寺てら。ハ。紋もん。子この。袈け。紗さ。被ひ。て。香かう。深しん。の。法ほふ。衣い。殊じゆ。勝しょう。げ。小せう。射しゃ。利り。と。い。ふ。草くさ。履り  
 取と。侵しん。欲よく。と。い。ふ。子こ。坊ぼう。を。供くわ。よ。つ。ま。木き。の。下した。ら。う。過か。り。ぬ。ば。夢ゆめ想そう。兵へい衛ゑい。ハ  
 こ。ま。を。見み。と。地ち。獄ごく。で。仏ぶつ。と。大だい。さ。小せう。飲のみ。び。堂だう。と。い。ふ。声こゑ。を。揚あ。喃なん。く。聖せい。よ。り。の。ち  
 え。是これ。ハ。日にち。奉ほう。國こくの。旅りよ。人にん。よ。夢ゆめ想そう。兵へい衛ゑい。と。い。ふ。り。の。る。が。不ふ。圖と。と。い。ふ。で。少せう。年ねん  
 國こく。を。欲よく。國こく。を。編へん。笠かさ。し。近ちか。属じやく。強きやう。飲のみ。國こく。は。拵しゆ。が。お。り。多おほ。天てん。狗く。や。熊くま。鷹たか。や。拍はく  
 ち。あ。れ。大だい。を。小せう。さ。う。の。ま。て。あ。の。如ごと。く。死し。ら。う。ら。う。進しん。退たい。究きゆう。て。難なん。依い。を。極ごく。の。の。れ。慈じ  
 眼がん。視し。衆しゆ。生せい。の。背せい。せ。う。し。扶たす。お。ろ。は。し。び。も。と。春はる。を。搦な。て。憑たす。む。ら。う。慈じ。海かい。和わ。尚しょう

梢をえのけて。さくそれへ気の毒千万。残ふはまゝのまゝのまゝ。人と救ふ  
へ出家の後なり。冥加残のすかよらて。相誇よるべし。拙僧甚途  
といふ。さく直を限之。と慾なりまゝて宣へ。後兵衛呆果を  
さても貪婪といふ。國へ寄らまゝておを病し。人あり木の端り。叶のそれの  
さうふいのを出家と。人の難儀と。債傳ふ。しやうけける。技計口上。憎ま  
あしと。さくとも。狼貪。冥加の。國風。俗人の。母。ひや。その和尚と  
さう逃し。後ふ。勸解。とも。あつて。さく人。の。早。費。さる  
さう。小。日。乾。ふる。さう。さく。あつて。折。と。ふ。手。さる。と。必。業。と。木。の。杪。高。く  
声。さる。の。げ。宣。ふ。知。義。さる。某。懐。中。の。路。根。澤。山。所。持。り。さく。さる  
さく。の。寄。進。と。と。餘。さる。さく。の。慾。海。和。尚。と。め。て。莞。尔。と。さる。笑。を  
さく。の。さる。さく。の。衆。生。の。度。と。さく。女。既。は。髣。の。金。の。枝。さる。べし。

と回答して懐る紙入り。夏箒盤と取掛。かづの樹のさか五六  
犬もあつて。これへ掛る。是代の杖九枚と十本と。さく。代。根。か。八十。目。  
さく。の。外。中。運。送。の。車。力。と。さく。黄。紙。百。文。と。さく。の。つ。つ。外。の。索。  
十。把。四。百。文。の。人。足。と。さく。三。貫。文。と。さく。の。入。用。銀。八。十。目。と。  
残。四。貫。六。百。文。と。さく。の。さく。今日。有。徳。の。檀。方。へ。非。時。と。さく。さる。  
さる。殊。さく。一周。忌。の。速。夜。の。れ。飯。意。も。格。別。の。さる。さる。さる。さる。さる。さる。  
さる。馳。走。と。さく。け。と。宝。の。山。へ。足。踏。り。け。腹。と。さく。と。損。名。と。さく。と。勘。定。  
て。さく。の。奉。持。と。さく。五。匁。と。さく。主。役。三。人。で。十。八。匁。硯。蓋。由。二。面。と。さく。八。匁。が  
の。の。の。さく。吸。物。が。三。つ。味。噌。吸。物。が。二。つ。主。役。へ。生。と。吸。物。の。致。と。  
五。十。五。碗。と。さく。積。り。さく。四。匁。五。分。取。着。二。つ。碎。散。二。つ。と。三。匁。積。り  
さく。上。下。と。さく。三。八。廿。四。匁。酒。の。一。挑。子。五。合。宛。め。主。役。三。人。で。十。挑。子

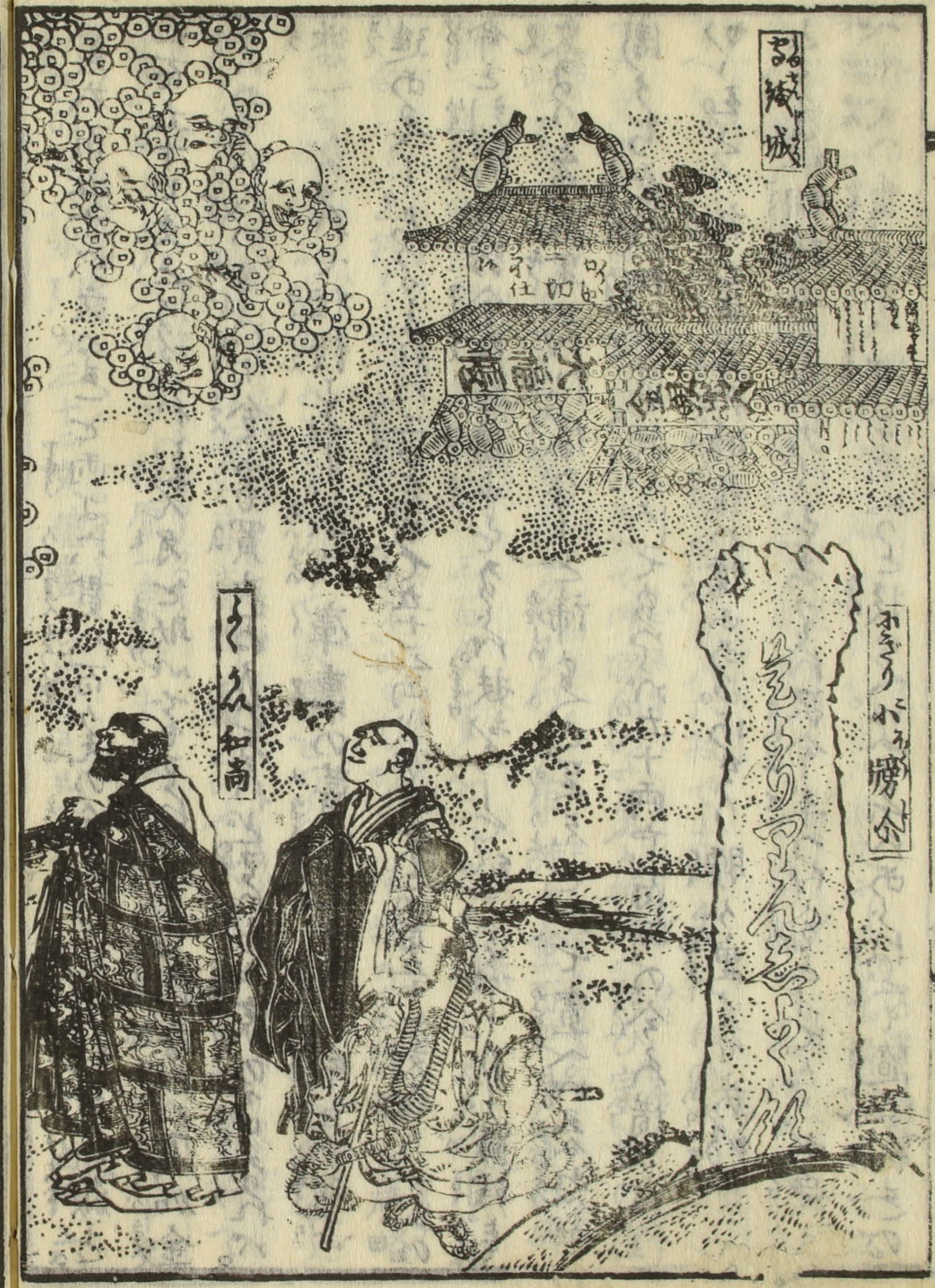
へ輒く切ぬべし。酒五斗。一斗あり。計百八拾文あり。を貫四百十六  
 文引物の菓子。のき分。優改三ツ。米優改二ツ。大落雁一ツ。花母一ツ。人  
 中七下みく。三七二枚を。上色の粘入六枚で十八文。紅白の水引三把  
 で六文。を飽ちで飲食し。とくで。回向。と持仏へ。對ひ。宗旨の經  
 文。些を。口。の。うち。で。う。る。と。か。く。と。れ。く。布。施。少。金。百。疋。芥。子。の。優  
 懲。一。兩。後。者。の。射。利。女。へ。三。百。文。を。一。下。志。の。締。て。足。さ。バ。限。七。拾  
 計。八。分。と。錢。を。買。七。百。四。十。文。を。の。め。く。の。結。構。の。檀。那。を。鹿。略  
 あ。く。俄。頃。は。病。氣。と。正。り。の。ゆ。て。使。僧。を。つ。ら。と。よ。く。も。空。子。で。か。や  
 せ。ど。の。進。物。が。大。枚。原。一。束。春。野。香。と。の。長。線。香。十。把。靈。前。へ。と  
 書。を。出。す。の。入。用。が。六。枚。原。一。束。で。十。枚。春。野。香。十。把。で。二。百。八。十。文。  
 上色の粘入水引。が。三。十。二。文。總。高。を。め。て。足。さ。バ。百。六。十。計。八。分。と。錢。六

貫六百五十六文。を。と。兩。は。六。貫。八。百。が。え。の。令。あ。り。て。三。兩。分。計。米。と。  
 四百五十七文と。る。これ。い。お。ん。を。助。け。で。も。つ。れ。ら。が。所。得。の。れ。バ。眞。加。金  
 あ。の。い。ん。の。令。の。千。分。の。中。買。五。ぬ。り。の。ま。わ。と。れ。ら。出。家。の。り。多。れ。バ。  
 慾。を。も。つ。れ。て。相。送。さ。す。永。代。庫。裏。の。普。智。と。く。只。今。五。十。兩。香  
 進。め。さ。し。あ。る。と。死。の。二。口。志。め。て。五。十。兩。分。計。米。と。四。百。五。十。七。文。の。り。の。の  
 命。と。引。替。し。の。令。錢。と。通。と。る。と。り。の。杖。お。ろ。く。ひ。び。さ。さ。り。の。織。練。を  
 文。の。り。も。不。定。せ。バ。仏。縁。の。り。と。諦。め。と。足。え。を。見。て。宣。へ。バ。名。お。兵  
 衛。ら。ち。点。既。何。か。を。技。お。し。て。め。つ。バ。五。十。兩。や。百。兩。の。今。も。惜。ら。ん。ん  
 か。い。ち。の。旅。を。そ。と。れ。路。限。の。懐。お。あ。り。の。ま。り。腰。か。重。く。と。未。だ。か。い  
 と。う。ま。い。相。送。ふ。こ。の。の。と。と。あ。う。ら。バ。只。今。手。つ。け。令。と。一。て。六。兩。受。ま  
 べし。犬。の。糞。の。り。知。へ。そ。う。つ。と。投。め。り。の。ま。ま。の。あ。ら。ぬ。と。も。隨。合。切。ま。の



新編 日本書紀

二



山城

山城

山城

山城



て。夜ふりて。つとに。駕賃とて。分ちて。ひた。糸の。受納。一。尻  
ひら。げ。膝栗毛。の。つと。は。後。よ。あ。れ。て。も。駕賃。う。せ。と。り。の。あ。ん  
や。と。と。て。の。う。ら。ぬ。人。出家。を。斬。と。五。百。生。ま。せ。地。獄。で。舌。を。折。を。こ  
や。と。威。し。く。え。と。賺。し。う。比。喻。方。便。も。さ。ら。ふ。乃。の。い。ひ。て。お。ん。て。愛。忠。兵  
衛。ハ。呵。と。う。ら。笑。ひ。是。代。の。母。の。代。の。と。鏡。つ。れ。ぬ。人。和。尚。の。舌。を。折。れ。ぬ  
用心。志。の。う。い。仏。ハ。慈。悲。を。體。と。す。怒。を。り。て。教。と。と。妻。子。珍。宝  
及。王。位。臨。命。終。時。不。隨。者。唯。戒。布。施。不。放。逸。者。今。世。後。世。為  
伴。侶。と。大。集。經。も。説。き。さ。ら。ふ。出家。の。錢。を。母。り。か。ば。何。と。り。て。桑  
門。と。見。些。ハ。恥。と。あ。り。ぬ。と。づ。ろ。ろ。の。い。ハ。慈。海。和。尚。法。衣。の。袖。と。搔。合。せ  
さ。さ。の。凡。夫。の。淺。す。い。仏。の。方。便。と。あ。ら。ぬ。大。集。經。よ。説。き。は  
物。と。も。さ。ら。檀。方。子。布。施。と。も。さ。ら。善。巧。方。便。加。之。先。明。經。も。乃。至

得。聞。是。經。當。令。是。等。悉。得。猛。利。不。可。思。議。大。智  
惠。聚。不。可。稱。量。福。德。之。報。も。さ。ら。説。け。亦。法。華。經。普  
門。品。の。若。有。女。人。欲。求。男。礼。拜。供。養。觀。世。音。菩。薩  
便。生。福。德。智。惠。男。設。欲。求。女。便。生。端。正。有。相。女  
宿。植。德。本。衆。人。愛。敬。と。説。ひ。て。怒。り。引。こ。む。成。仏。道。塞  
錢。を。投。つ。け。ま。し。て。腹。と。り。ぬ。佛。ハ。り。仏。由。令。を。欲。り。ぬ。ハ。黃。金。と  
り。て。巾。着。と。泥。ま。あ。ら。ぬ。と。さ。ら。と。あ。ら。ぬ。地。獄。の。制。度。由。金。次。弟。十  
王。が。勸。進。も。さ。ら。か。為。と。ハ。衆。生。の。常。言。般。若。貳。昧。か。残。と。り。て  
い。ら。ぬ。真。讀。の。施。主。の。つ。れ。は。汝。駮。の。路。銀。あり。とい。い。ハ。偽。也。その  
懷。ふ。物。も。死。る。今。の。一。勺。も。推。量。と。眞。土。黃。泉。も。奪。衣。婆。ある  
錢。も。死。亡。者。ハ。こ。ま。よ。剥。る。懷。搜。し。物。も。ハ。丸。む。れ。ぬ。後。を。笑。ん

上巻目録下前巻目録



者奴迹と云ふ。といれられたるハ、いづれと云ふ。と左右より手とり足と云  
 納ふやうに丸めたの旅鳥、身を動きぬ羽がひきぬ。鳥膚より赤裸  
 合羽六十と云ふ。云々。まろめて帯めたる。うと括る。又勢より分  
 ハ出されど。ゆりせくも聴びて。野太い奴は、合大骨折てまろり  
 志まると云ふ。あつ物と百貫の。肩よりけり古腕袍。ねくふめぬと主  
 後が立蹴り礎と蹴る。足も。政へゆき。田畦道横筋遠く走りぬ。そ  
 悲かな。夏衣兵衛ハ、髭鼻禪ひらの瘦殿坊主が憎げ。今朝  
 までも。見る布子の。あつて。何知へゆ入。指場で。猫の魅せ。死人  
 のとく。まろりくとまろり居る。西由東由定る。ねびと相撲ハ  
 る。肩こられど。げふ世の人の。あつて。いざ。ま食とる。うと。い恨  
 まろり。向上まバ。あつ樹の。まろり常る。火猿滑ふ。似て。木の層死て

茶罐と云ふ。葉ハ一文。残ふ似て。生糸を剥き。早と。果の取  
 西拖泥の人。参果の。竹あつて。べろろろろ。と。まろり。か。じ。寔。よ。あ。樹。を。阿  
 太次計。梨と。名つけ。る。由。まろり。の。あつ。國。も。都。あ。情。あ。人  
 る。まろり。と。あ。か。ろ。と。あ。ま。あ。守。浅。城。へ。と。まろり。也。く。柳。部。の  
 形勢ハ。町條。奇麗。あ。く。庫。造。は。格。子。を。まろり。つけ。或ハ。櫻。桐。林。は。居。宅  
 を。構。へ。或ハ。硝。子。の。長。簾。を。まろり。け。北。月。門。で。采。春。杵。の。響。車。井。戸  
 の。轆。る。音。昼。の。響。析。は。飯。と。れ。を。まろり。せ。夜。の。桿。棒。ハ。枕。え。い  
 り。まろり。せ。壁。は。掛。る。用。心。草。鞆。ハ。大。人。團。の。串。柿。の。ど。く。櫛。小。活。糸  
 霖。雨。の。番。傘。ハ。半。夏。過。の。竹。の子。より。まろり。残。ハ。あ。ま。と。由。は。まろり。い  
 て。生。狸。股。引。穿。づ。め。小。主人。由。小。斬。より。ち。まろり。主。後。竹。の。皮。履。穿。て。  
 木の皮で。湯。を。ろ。提。煙。州。ハ。紙。より。で。まろり。煙。草。ハ。一。玉。六。十。四。文。青。臭。い

のを最上と一魚ハ塩物乾物で賞賤とまこと朔日十五日の外ハ食ふ  
 飯ハ黒きを厭ふ。汁ハ薄く厭ふ。朝ハ下死より起て竈の下  
 のせりやで。夜ハ遅く寐て犬の声は耳を側て。今と飲て出で哀  
 と。不如意の親類へハ。年始由門礼で。敬して遠ざけ。長尾の客持り  
 梅らんとする。それより。お茶漬でもといふ。勘定づくで。り女房。  
 一騎當千と云うて。在々の怪子。田畑流まを。と名蹟と定め。  
 有明を。おどろて。換る小定香盤を。りて。月の膏を。後りて。仇の先  
 小火を。半枚の附本を。惜して。燧を。漬て。草履を。えせ。懇意  
 づくで。唯ハ通さ。團中の男女母の胎内。よ。と。四十年。あし。く  
 えて。めで。生。六七十。と。一期。と。まれば。いづ。も。志。も。あ。れ。て。少。さ。も。年。老  
 しく。只。吝。嗇。を。度。と。く。刺。の。為。は。煩。悩。を。心。と。た。る。り。愛。お。兵。衛。ハ

くれ。の。取。勢。も。極。ま。る。ひ。呆。ま。す。門。よ。さ。袖。よ。つ。け。も。慈。悲。善。根。と  
 い。い。と。取。ま。る。ぬ。團。る。れ。一。組。の。手。の。内。を。る。り。の。ゆ。ら。い。仇。疲。ま。て。今。ハ。一。歩。由  
 運。ひ。か。け。は。南。と。う。け。る。十。字。街。は。大。さ。る。家。造。の。窓。の。下。に。在。り  
 び。ふ。り。来。る。岩。寺。阿。爺。七。さ。り。の。獨。羽。織。の。小。紋。の。肩。を。け。以。の。霜  
 ハ。備。前。陶。を。度。ま。さ。る。侍。あり。洗。ひ。う。じ。の。松。坂。結。子。木。綿。小。倉。の。二。重  
 草。曲。り。形。る。古。雪。踏。も。の。ね。ハ。威。ら。さ。ぬ。身。が。る。と。左。手。は。松。魚。の。提  
 て。右。手。不。持。り。一。把。の。薪。を。町。中。へ。撲。地。と。お。た。り。あ。い。物。と。其。ハ。三。三。二  
 文。の。損。と。ま。る。長。と。ひ。と。ひ。り。言。く。松。魚。を。薪。の。上。に。裁。せ。る。向。で。と  
 味。く。捨。て。た。と。愛。お。兵。衛。ハ。鉄。け。は。眼。も。な。る。さ。は。貪。婪。團。も  
 又。お。る。気。ら。か。ひ。ハ。の。り。り。上。堅。木。の。薪。を。一。把。を。え。て。生。か。す。る。松。魚。を  
 捨。て。さ。う。と。て。解。せ。ぬ。奴。故。と。あ。め。め。つ。ま。は。同。し。と。い。は。深。く。怪。し。け。り。

世安お心女徳巻之七

〇





情の主人の云詰は辞とる色多く。白竹の片折戸を推ひて、齋院より  
 ありのりれい小断二人出て、客中、髪小鏡、川貝くしと廣蓋、衣裳一  
 襲と裁てりて、出で足さば、徳海和尚と剃とる。日か衣裳ありけし、  
 まさしく髪たうがら、さしと被て、蓑のぬへ、ゆきさる。後、小断亦給仕  
 して飯を食い。中酒は、吸物、散をえて、盃を勸む飯、一汁、五菜、ふ  
 まて、尋老の、食、愈よ、うさ、色、バ、い、ま、ご、その、意、を、曉、ら、ん、さ、う、か、あ、く  
 怪しつ。物、目、け、は、飽、ま、ら、う、ら、食、て、も、あ、て、ま、れ、は、あ、り、さ、る、お、れ、せ、り。  
 そのとれ、主人、さ、ら、出、て、愛、忠、兵、衛、は、對、ひ、を、れ、が、ん、洞、真、と、呼、び、て、さ、の、里、は、  
 二世の春秋と、お、ら、る、さ、う、さ、く、人、あ、も、あ、り、と、し、る、の、ま、ま、是、又、祖、の、賜、と、且、  
 素平の時、生、ま、し、の、ひ、し、の、幸、福、と、と、ん、だ、れ、は、生、卒、は、神、仏、と、崇、め、  
 あり、ま、り、も、先、祖、と、麻、累、は、せ、と、今、宵、は、さ、ら、さ、ん、仏、子、あ、り、て、親、戚、朋、友、

と振くおるれば、仰、酒、飯、を、ち、あ、ら、し、る。實、は、お、ん、身、一、人、を、歎、待、め、お、ん、身、  
 さ、る、み、う、つ、て、御、向、は、日、か、菩、提、所、る、る。丘、長、寺、の、徳、海、和、尚、を、招、約、し、ら、う、し、ふ、  
 和尚、四、表、八、表、の、物、詰、し、く、け、ら、る、ん、を、く、の、り、あ、ら、ん、。彼、日、本、人、こ、と、  
 あり、と、あ、ら、ん、。古、挽、袍、を、う、い、は、し、る、者、奴、が、い、ふ、の、憎、け、し、は、(徳、  
 懲、り、し、ま、さ、く、。首、尾、と、説、き、ま、し、る、ひ、く、は、ま、れ、う、お、ん、身、か、床、屋、を、  
 ま、ま、ら、。あ、ら、れ、と、お、ん、身、。る、海、曉、ら、ん、と、く、。日、か、圃、と、い、や、め、い、う、罵、り、  
 こ、を、傍、痛、け、し、夫、躬、は、髪、あ、ら、の、の、櫛、の、垢、を、ま、て、ま、ま、と、挿、湯、は、入、  
 り、の、風、を、拾、ひ、捨、布、子、を、揮、て、ま、ま、と、被、る。さ、の、の、身、の、清、さ、が、あ、ら、お、  
 様、さ、れ、の、為、ら、る、。り、お、ん、身、の、志、の、清、さ、を、り、て、ま、ま、と、あ、ら、ん、さ、ら、ん、  
 て、利、を、説、て、徳、海、和、尚、を、説、き、ま、し、る。さ、の、衣、は、衣、裳、を、剃、る、と、い、く、と、も、  
 彼、と、争、ひ、が、あ、ら、ん、。和、尚、の、お、ん、身、を、扶、お、ら、ん、と、い、ふ、べ、し、五、十、餘、金、を、



びく出まめりこれと云ふとて亦彼蚕食貪利の徒ハ糠を食ひ垢を  
 舐り。理義を忘きて法度を犯し。その抄ハ道ヲ稱する由多ク貪利ハ  
 以とも富強の道と云ふべし。炭と云ふて炭團を造る。半紙の藁を折て  
 糞糞又絢煮豆と食へば袖口からるる。飯は切れやせを食ひやうらひ  
 云ふ所の料簡ハ一生度跡にあらざれば。是も亦令錢を欲と云ふの事也。  
 強正紙あつたれば。實は令錢を欲といふ人ありざれど。放蕩サ我の徒ハ  
 人の物を借て返さざる。比まば雲壤のたがひあり。世は兄弟親友といども  
 その志と云ふれば。終は愛想の場あり。令錢の上は。彼放蕩サ我の  
 為伴を啖くふ。物地のもの差別あり。借り方を返さば。貸入るる。云  
 ありとれば。飽ちて飲食する。死に連日食ハば。そのハ綿褲を細世  
 も。よハ一枚のぞくふ。事を缺るが。悔む恥ぢく。ある人ハ。誇ると云ふ。

類ハ。の國は絶てり。人恒の産る死に恒のそあり。業と云ふは  
 のハ。榮業は急なり。のハ。亡人人間の百樂ハ財を取るふ。志くものあり。云  
 富ハ人の欲と云ふ所。貪と云ふ人の憎むところ。人貧窮するに死ハ不良乃  
 云と云ふ。云と云ふ。富で不良の云と云ふ。發と云ふのあり。り。云と云ふ。して。寡  
 慾るれば。道を清と稱と。それハ。世と捨するふあり。世と  
 捨して。僅一分を成るの。死後の名ハ生前の富と云ふ。神  
 仏の利益も。令錢の利益と云ふ。君子ハ。君子ハ。錢を乞ふ。云と云ふ。  
 道を孔兄と稱と。道と云ふ。晋の魯慶が神錢論ハ。云と云ふ。  
 兄の云。字して孔兄と云ふ。道を失ふと云ふ。貪弱。道を失ふと云ふ。  
 富強。翼りて。我び。走る。嚴毅之顔と。鮮難。發之口と。聞  
 残。多。の。前。又。殘。少。の。後。又。多。詩。云。苛矣。富人。





哀此弊獨。豈<sup>ひ</sup>をいみ<sup>ふ</sup>致<sup>せん</sup>の<sup>る</sup>る<sup>る</sup>泉<sup>る</sup>。百姓日<sup>ひ</sup>月<sup>げつ</sup>用<sup>ひ</sup>て。  
 その原<sup>もと</sup>置<sup>か</sup>と。遠<sup>とほ</sup>と<sup>く</sup>往<sup>む</sup>る<sup>る</sup>と<sup>る</sup>。深<sup>ふか</sup>と<sup>く</sup>至<sup>る</sup>る<sup>る</sup>と<sup>る</sup>。京<sup>きやう</sup>邑<sup>い</sup>の  
 衣<sup>い</sup>冠<sup>かん</sup>も。疲<sup>つか</sup>勞<sup>らう</sup>の<sup>く</sup>構<sup>かま</sup>肆<sup>し</sup>も。清<sup>せい</sup>法<sup>ぽう</sup>を<sup>ま</sup>く<sup>と</sup>と<sup>を</sup>厭<sup>いと</sup>ひ。ま<sup>ま</sup>と<sup>ま</sup>對<sup>たい</sup>と<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>睡<sup>すい</sup>寐<sup>み</sup>  
 我<sup>われ</sup>家<sup>か</sup>兄<sup>あに</sup>と<sup>え</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>驚<sup>おど</sup>る<sup>る</sup>視<sup>み</sup>る<sup>る</sup>と<sup>る</sup>。ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>不<sup>ふ</sup>吉<sup>きち</sup>と<sup>る</sup>  
 利<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>ざる<sup>る</sup>と<sup>る</sup>。何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>な<sup>ら</sup>ず<sup>も</sup>書<sup>か</sup>を<sup>よ</sup>んで<sup>る</sup>と<sup>る</sup>。後<sup>のち</sup>は<sup>は</sup>富<sup>ふ</sup>貴<sup>き</sup>なる<sup>る</sup>  
 残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>神<sup>かみ</sup>物<sup>もの</sup>なる<sup>る</sup>。位<sup>ゐ</sup>わ<sup>く</sup>と<sup>く</sup>と<sup>く</sup>勢<sup>せい</sup>ひ<sup>ひ</sup>る<sup>る</sup>て<sup>て</sup>勢<sup>せい</sup>ひ<sup>ひ</sup>未<sup>み</sup>門<sup>もん</sup>は  
 排<sup>は</sup>へ<sup>て</sup>紫<sup>むらさ</sup>圍<sup>い</sup>ふ<sup>る</sup>。残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>不<sup>ふ</sup>危<sup>き</sup>と<sup>も</sup>安<sup>やす</sup>く<sup>も</sup>死<sup>し</sup>する<sup>る</sup>と<sup>も</sup>活<sup>い</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>の  
 去<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>不<sup>ふ</sup>貴<sup>き</sup>と<sup>も</sup>賤<sup>せん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>殺<sup>ころ</sup>す<sup>る</sup>も<sup>も</sup>殺<sup>ころ</sup>す<sup>る</sup>も<sup>も</sup>念<sup>ねん</sup>淨<sup>じやう</sup>辯<sup>べん</sup>訟<sup>そう</sup>も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>  
 み<sup>み</sup>あ<sup>ら</sup>ざ<sup>ら</sup>ば<sup>ば</sup>勝<sup>かち</sup>と<sup>も</sup>孤<sup>こ</sup>弱<sup>じやく</sup>幽<sup>ゆう</sup>滯<sup>ちゆう</sup>も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>ば<sup>ば</sup>抜<sup>ぬ</sup>く<sup>る</sup>怨<sup>おん</sup>仇<sup>きゆう</sup>嫌<sup>けん</sup>恨<sup>こん</sup>も<sup>も</sup>  
 残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>ば<sup>ば</sup>解<sup>かい</sup>と<sup>も</sup>令<sup>れい</sup>同<sup>どう</sup>笑<sup>しょう</sup>談<sup>たん</sup>も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>ば<sup>ば</sup>發<sup>はつ</sup>と<sup>も</sup>談<sup>たん</sup>も<sup>も</sup>  
 残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>と<sup>も</sup>使<sup>し</sup>ふ<sup>る</sup>死<sup>し</sup>て<sup>て</sup>人<sup>ひと</sup>を<sup>を</sup>子<sup>こ</sup>夏<sup>あ</sup>か<sup>か</sup>云<sup>い</sup>死<sup>し</sup>

生<sup>なま</sup>命<sup>いのち</sup>あり。富<sup>とみ</sup>貴<sup>き</sup>天<sup>てん</sup>あり。吾<sup>われ</sup>以<sup>も</sup>て<sup>て</sup>死<sup>し</sup>生<sup>せい</sup>命<sup>いのち</sup>あり。富<sup>とみ</sup>貴<sup>き</sup>残<sup>ざん</sup>あり。何<sup>なに</sup>と<sup>も</sup>い<sup>ふ</sup>  
 此<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>明<sup>あきら</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。残<sup>ざん</sup>の<sup>た</sup>る<sup>る</sup>禍<sup>わざはひ</sup>を<sup>を</sup>轉<sup>ころ</sup>と<sup>も</sup>福<sup>ふく</sup>と<sup>も</sup>。敗<sup>さい</sup>と<sup>も</sup>成<sup>なり</sup>と<sup>も</sup>危<sup>あや</sup>と<sup>も</sup>  
 り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>安<sup>やす</sup>く<sup>も</sup>死<sup>し</sup>する<sup>る</sup>も<sup>も</sup>生<sup>い</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>活<sup>い</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>性<sup>せい</sup>命<sup>めい</sup>の<sup>の</sup>長<sup>なが</sup>短<sup>たん</sup>相<sup>あひ</sup>祿<sup>りやく</sup>の<sup>の</sup>貴<sup>き</sup>賤<sup>せん</sup>  
 も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>あり。天<sup>てん</sup>あり。天<sup>てん</sup>も<sup>も</sup>短<sup>たん</sup>と<sup>も</sup>長<sup>なが</sup>と<sup>も</sup>あり。残<sup>ざん</sup>も<sup>も</sup>長<sup>なが</sup>と<sup>も</sup>短<sup>たん</sup>と<sup>も</sup>あり。四<sup>し</sup>時<sup>じ</sup>の  
 行<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>万<sup>まん</sup>物<sup>ぶつ</sup>の<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。天<sup>てん</sup>も<sup>も</sup>天<sup>てん</sup>も<sup>も</sup>及<sup>およ</sup>ぶ<sup>る</sup>。窮<sup>きゆう</sup>達<sup>たつ</sup>用<sup>よう</sup>塞<sup>さい</sup>負<sup>ふ</sup>と<sup>も</sup>賤<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>  
 乏<sup>ひん</sup>を<sup>を</sup>濟<sup>す</sup>ふ<sup>る</sup>。天<sup>てん</sup>も<sup>も</sup>残<sup>ざん</sup>も<sup>も</sup>及<sup>およ</sup>ぶ<sup>る</sup>。藏<sup>ざう</sup>武<sup>ぶ</sup>仲<sup>ちゆう</sup>が<sup>が</sup>智<sup>ち</sup>十<sup>じゆ</sup>莊<sup>じやう</sup>子<sup>し</sup>が<sup>が</sup>勇<sup>ゆう</sup>再<sup>さい</sup>求<sup>きゆう</sup>が<sup>が</sup>憂<sup>ゆう</sup>  
 の<sup>の</sup>正<sup>せい</sup>文<sup>ぶん</sup>と<sup>も</sup>と<sup>も</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>不<sup>ふ</sup>あ<sup>ら</sup>ず<sup>も</sup>唯<sup>ただ</sup>孔<sup>こう</sup>方<sup>ほう</sup>  
 の<sup>の</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>大<sup>だい</sup>畧<sup>りやく</sup>の<sup>の</sup>残<sup>ざん</sup>の<sup>の</sup>減<sup>げん</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。愛<sup>あい</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。使<sup>し</sup>ふ<sup>る</sup>べ<sup>べ</sup>く<sup>く</sup>  
 ぞ<sup>ぞ</sup>あ<sup>ら</sup>ざる<sup>る</sup>残<sup>ざん</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。富<sup>とみ</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。且<sup>かつ</sup>  
 妬<sup>ねた</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>情<sup>せい</sup>貧<sup>ひん</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ひと</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。残<sup>ざん</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>の<sup>の</sup>死<sup>し</sup>と<sup>も</sup>る<sup>る</sup>。一<sup>いち</sup>日<sup>にち</sup>も<sup>も</sup>生<sup>い</sup>か<sup>か</sup>ば<sup>ば</sup>世<sup>よ</sup>は<sup>は</sup>日本<sup>にっぽん</sup>を<sup>を</sup>神<sup>かみ</sup>  
 國<sup>くに</sup>と<sup>も</sup>。天<sup>てん</sup>を<sup>を</sup>仙<sup>せん</sup>國<sup>くに</sup>と<sup>も</sup>。唐<sup>たう</sup>山<sup>さん</sup>を<sup>を</sup>儒<sup>にゆ</sup>國<sup>くに</sup>と<sup>も</sup>。日<sup>にち</sup>本<sup>ほん</sup>神<sup>かみ</sup>國<sup>くに</sup>の<sup>の</sup>と<sup>も</sup>い<sup>ふ</sup>と<sup>も</sup>皆<sup>みな</sup>

唐書見天衛卷之七

ちびく神るらんや。天竺仏國ありといふも。仏のそりらんや。唐山儒國の  
 こいつとも。儒者のそりらんや。あつればが國を貪婪といふもこれにあかじ。  
 貪る人のそりらんや。只利よそりらん。他國を擄まると言舌爽  
 不利害を竭く。説諭せば。憂想兵傷の嘆息。主人の實は利達の人。  
 富貴もその道よりつてさると死の辞さう。只利あつて。漢るが死の  
 君子はせど。孟子齊のあつて。齊王は兼金二百と徳もあつて受て  
 宋もあつて七十益と徳も受て。その百と受て。七十と受て。の  
 豈利の爲るらんや。かゝるな。云以取べ。以取るるべ。取ら廉を傷る。以  
 ちふへ。以ちあつてさうるべ。ふふは惠を傷る。亦聖人の言は云道二つ。  
 仁と不仁との。夫利ハ禍のよるふを。とりて君子ハ利を説き命は吉凶  
 あり。事は前後あり。求むるに至るを天福といふ。君子ハ天福と受て利

と蓋に至らざれば。清貧と成る。竟天下をとりて。舜は徳も。舜は徳を  
 受く。季歷その國を獻き。太伯を受て。舜の受て。亦天福あり。  
 太伯の受て。天福はよる。えん。四海をとりて。万々の利は比さる。か  
 萬金嶋毛より。程。あつて命吉の人。ま。國中の令。残る。か。一。受て  
 と死ハ。えん。富ると。残る。れ。の。又。求つて。残る。嬌をとりて。乞  
 務りて。賢を。えん。えん。よ。と。め。の。亦。迷る。ね。士ハ。農の上  
 あり。農ハ。ユの上。あり。ユハ。商の上。あり。守。残る。人ハ。亦。その。下。あり。  
 かる。な。君子ハ。耕。せ。も。營。も。名。と。重。し。と。と。と。りて。利。の。乃。は。行。ひ  
 と。巧。さ。僕。の。鄧。通。ハ。蜀。の。洞。山。を。め。り。て。さ。う。残。と。傷。く。も。終。は  
 道。強。く。織。て。死。し。晋。の。石。崇。の。富。貴。世。の。耳。同。と。驚。り。せ。も。朝。罪  
 せ。り。て。又。の。積。と。り。ぬ。り。善。と。極。む。く。残。と。積。と。道。と。は。一。と。富



人その思と感せざるといふとる。かり利よりて人を救ふとて人これ  
 恵とせざと譬ふ人の為は稻と外りの。その穂とて藁とて藁とて久ま。孰  
 らとを飲ふべき。人の乃又畔を造るの。田へ水と引く。正あふ。孰  
 られと勞ふべき。残あるりの。人の火急と救が如きも。これ又似し。その利の為  
 小する。これハ稻と刈て藁とて藁とて畔を造りて水を洞とて何ぞ異なる  
 んと。席とてて説破ま。洞臭呵とてうち笑ひ。子貢ハ貨殖とて  
 孔子又噴らと。范蠡ハ至る亦多る。富り。子貢范蠡の才ありとも。  
 利と捨ててよく貨殖せん。我人の火急と救へ。彼亦是れは報ふ。銭を  
 ちてこれを返と。り人の為は稻と外れ。一斛の粟ありて。その一斛を取  
 らん。孰りてとを飲ばざらん。人の乃又畔を造るの。百斛の水とて  
 て一斗の水とて田へ引く。孰りてとを勞はざらん。利ハ金銭乃融通

する亦恐る。車ハ車ハ輪の。貧さの富里とて。その陰と。夢  
 とを希ひ。富人ハ貪地へ来と。ハ。その里り。貧賤へ。貧福ハ影と  
 形の。教ハ教ハ隨て動く。の。形ハ影ハ隨て動く。こと。ほ。おん  
 牙ハ教る。づれハ形なり。言ハ言ハ隨ふべ。と。あ。き。ら。て。答。れ。ば。愛  
 兵。闘。ま。つ。り。や。子。貢。が。殖。范。蠡。が。富。の。と。財。を。聚。め。て。これ  
 と。散。ら。す。の。友。子。貢。が。里。小。貪。さ。り。の。り。范。蠡。が。子。財。財。用  
 小。する。の。困。人。ハ。志。づ。ば。財。を。積。む。散。ら。す。と。紙。者。ハ。馬。接。が。所。謂  
 守。銭。の。勇。と。紙。り。て。一。家。ハ。富。と。い。ふ。も。郷。黨。ハ。寒。く。一。身。銭。を  
 積。と。い。ふ。も。親。族。ハ。饑。と。い。ふ。も。也。洞。臭。忽。地。氣。色。変。て。  
 汝。日。が。好。意。よ。う。て。利。と。て。衣。裳。は。あり。つ。れ。子。貢。飯。を。食。ひ。こ。が  
 酒。を。飲。み。腹。の。よ。れ。ま。よ。と。い。ふ。の。廣。言。吐。て。惑。え。ん。と。也。實。は。我。國

夢見其徳卷之五

のかえと神あり。誰りあり。者奴追ひ出せと罵まば。うけぬる。と回答  
 して大の男三人次の間より走り出六尺棒を閃くと打らふと競  
 むれば。夏虫兵衛の大きき怖ま。身を跳らし走り出足は信一  
 逝る程よ。その日も既よ。多敷宿く。七人もあつた。今宵ハ。宿と云ひ  
 定めて。森よとの。鐘と云ふ。月を燭よ。四五十町。あつらんと。天  
 天結陰て。道いと暗く。左手右手の叢より。燐火。隔と云ふ。雨がり。  
 煙の。こゝろ人。氣と云ふ。と。中や。と。見よ。と。世の人。あつたりけり。  
 或ハ。庫の。焼と云ふ。或ハ。千両箱を。引く。え。か。令。と。呼ぶ。声の。  
 あつた。れて。りの。凄。く。身の色。の。よ。と。二。目。も。も。え。う。ハ。お。お。え。ね。ど。  
 とも。捨。る。身。の。あ。と。づ。く。足。を。踏。あ。め。て。左。右。を。ぞ。と。睨。つ。け。は。本。ハ  
 是。誓。家。の。一。弘。放。生。る。日。ハ。牟。利。の。奴。と。あり。て。血。の。先。へ。火。と。なり。死。て。焼。

狼の鬼と云う。煙の中は。取とあつた。人生きて。静る。天の性。物よ  
 感。れ。動。く。性。の。怒。る。り。その。取。め。と。り。て。怒。あ。死。て。何。の。怒。あ。つ  
 ん。真。の。幽。霊。あ。つ。も。あ。つ。ド。狐。狸。の。爪。を。う。と。本。の。取。と。あ。つ。た。は。ん。  
 生。皮。剥。ん。と。罵。ま。ば。怨。美。け。く。と。う。と。笑。ひ。あ。つ。る。と。取。つ。人。を。人  
 の。命。終。り。て。皮。肉。丁。を。朽。由。腐。も。よ。れ。惜。ま。け。れ。の。怨。念。ハ。骨。と。共。よ  
 朽。る。と。ひ。夫。愛。惜。の。多。ハ。賢。愚。異。あ。つ。子。夏。ハ。子。を。死。し。て。明  
 と。失。ひ。石。雄。恋。慕。く。風。を。発。せ。亦。日。の。本。の。惠。心。僧。都。ハ。常。ホ  
 西。方。極。樂。の。蓮。花。基。よ。生。じ。ん。と。願。ひ。あ。ひ。く。遷。化。の。と。死。火。葬  
 と。系。胸。膈。の中。に。蓮。花。あり。亦。唐山。の。一。女子。常。よ。山水。を。走。せ。が  
 死。す。後。その。胸。骨。を。え。ま。ば。山水。の。く。と。刺。る。が。と。博。物。の。物。論  
 と。め。ね。て。も。穿。る。と。あり。ま。ば。吾。儕。ハ。令。我。は。是。惜。し。ま。ば。狗。中。数。万

古事記 天孫降臨記 卷之五

の金浅あり。その怨念の方切なるは。雨の夜風の夕。ま幻は雨はつれい。  
 つか合入る。と鳴ぶぞり。凡慾は有用のるふ落く。と益の孺子厚き  
 の。と人情的の常とよる。死するの。金浅は用あり。あつれい。も  
 されは。惜して忘る。が死の。益の慾あり。これバサみあ。人由。多き  
 親族を救ひ。御黨と賑。先祖の墳墓を再建。子ども。乃は善  
 師と擇。家の破損と修復。るん。有用の。亦。残と惜。と  
 淫酒。耽。衣裳。又。と。山。水。日。と費。媚。と浮屠家  
 ぶ。求め。子ども。又。絲竹。艶曲。と。る。ん。益の。亦。る。れ。だ。  
 金。浅。と。惜。ち。ど。り。の。益。の。費。と。者。と。人。と。有用。の。る。の。と。せ。ん。  
 人物。世界。あり。あ。る。困窮。止。と。る。る。その。益。の。費。は。よ。う。て。  
 狂。氏。妻子。と。鶏。の。の。泰。平。の。餘。沢。あり。て。彼。が。益。の。費。を。必。く。

有用の用は宛れ。所謂糖と。と。て。水。を。落。下。流。の。人。れ。を。汲。が  
 如。彼。春。の。木。の。一。朶。数。百。花。の。る。も。果。の。十。が。二。三。よ。う。と。花。を。益  
 する。な。よ。ま。く。果。の。有用。の。る。も。必。く。少。し。且。その。花。を。愛。して。花。を。惜  
 む。の。豈。果。と。食。人。為。る。ん。や。君。それ。を。と。り。人。亦。各。普。二。の。あり。  
 貸。さ。借。と。夜。食。を。少。して。残。を。積。む。己。を。固。く。人。と。交。り。と。狐。陋  
 と。の。借。て。返。さ。ば。夜。食。は。猶。て。満。と。り。己。を。と。り。て。残。を。聚。る。と。奸  
 曲。の。の。の。な。よ。云。積。残。の。家。の。餘。慶。あり。借。合。の。家。の。餘。殃。あり。  
 君。今。奸。曲。と。措。て。貪。婪。を。責。ると。死。の。誤。を。と。り。て。その。子。の。不  
 孝。を。と。り。て。生理。学。を。と。り。て。世。情。を。恃。と。り。て。中。外。の。税。能。が  
 佞。と。學。び。宋。朝。が。足。は。扮。と。て。蔭。を。此。國。に。蒙。り。の。富。家。の。瘦  
 拘。る。と。大。木。の。蔭。若。死。浮。世。の。雨。を。避。ん。と。草。の。原。なる。









國おぬが才の及びぬ。諫言ハ耳は逆ひ良茶の口は苦し人の不吉を責  
 ると死ハ後の患をりふせんとハ孟子の料敵これハ彼大賢と云ふん道  
 と連あゆめれども齊の宣王は後と死宣王これと云ふらば寡人貨を  
 好むといハ貨よとてこそを競ふををむといふと死ハさよふて後  
 クレれどそれぞは遠いさくあまやこそ母も聴ざり。徳平ハ膏茶  
 と夏賣るやうらめと不域よささる昔も今も人情よえとめらるこそハ  
 おろが恥む老子どのが不吉人のとてけり中といひさくと云く貪婪  
 國の人とやとて取る所ののたけり放蕩國や奸曲國よ比さばそハ益  
 のふ似れども金買るとの甚しけり奸曲國と縁を結び小利大損の患  
 あり深山よ貨あり貨よころるれりのををゆるともいひ罪入り玉を  
 抱て罪ありといハおろが宗旨の妙文句ぞいふといふとて貪るの

おふりのあハ天道が大令成さうけさせぬ人よ死ふと生さば  
 たゞばり。これぞいふと捨て取らば己と繁正直なりてわりのふ  
 の富とおとりのふハ天の配劑貨ふむいハ怒怒るなハ天道が必  
 ハぬ貨と授けりハ怒なるものぬりの不吉の財と貪る。玉と抱バ  
 罪ありと身不應ぬ早死せぬ。この結が腰へあそむれば一生を  
 ずるのあれど飲ねば茶も功能なし。されば富も負をも面くのうらよ  
 ありて令後の人あハ真の福といふのハ道とてかをちりまると  
 とあつてその外と願ふ徳を脩て業とていふも言成極て聖教され妻  
 子と合しと不孝の子あり。親戚和睦しと不吉の奴僕あり。人その  
 言成極し。友その恨を生ると死ハ人間の富貴極まる。その友よ言成極  
 是貴人といふ人その言成極する死ハ後言おこらば友よその恨を生る



夢と死の情と整慾と禁め悪をのぞかれ牙の宝とある。今より  
 生まると古とある。心こころの宝あり。師しに従したがて道とばくしくしの宝あり。  
 字と積たて経史と読よむ。目の宝あり。牙の臭におは次つぎありて。煩悩ぼんごうの垢あか  
 と去さる。鼻の貨うらあり。言ことと慎つとむと禍わざはひと脱ぬる。口の宝あり。書法しよほうは  
 熟じゆくして四方よつの需かふ應おむる。手ての宝あり。病びやうありて。萬里ばんりは往來ゆき  
 する。足の宝あり。徳とくと備まへて。疾やまの刻ときを送おくる。子孫こそんの宝とされば  
 福ふくの業ごうと勤とるふあり。壽じゆの身みと有あつふあり。つれはをまじりての人と守まもる。  
 又また正ただ真まの福ふくの神かみあり。凡夫ぼんぷの信あむる。慾よくの神かみあり。あはれは舞まふ  
 吠吠わいの中ちゆうに生なまて。富とみ四海よをよめら。孔子こうしの宋魯そうろの名家めいけありて。  
 東西南北とうざんぺいより。その位ゐとほると。ほると人ひと力のちからなるべし。あはれは  
 あり。富とみ貴きはあつて。孔子こうしより。あはれは。悲かなしむ。貪あむる。婁ろうの園えん

人ひとは神かみ院いんをすて。狐狸こりの妖言まじなごとて。下士げし道みちをば。あはれは笑わらふ。  
 笑わらふ。あはれは。道みちとまふ。あはれは。あはれは。神かみ威いのあはれは。あはれは。あはれは。  
 呪まじなごて。あはれは。論ろんふ。あはれは。是非せいひ相あ半はんせり。その身み聖せい賢けんあり。あはれは。あはれは。聖せい  
 賢けんの口くちはねと。又また危あやうと。あはれは。あはれは。夜よも深ふかう。且かつく。あはれは。あはれは。  
 て。蘇そ枋ぼう保ほうの。小こ横よこ一いつつを。授ま与よへ。忽たちちと。て。飛と去さる。あはれは。あはれは。夢ゆめ想さう兵へい  
 術じゆつの忙いそ然ぜんと。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。  
 と。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。  
 驚おどろき。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。  
 神かみの授ま与よへ。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。  
 紙し老らう鷓せろ。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。  
 嶋しま仙人せんじんあり。賢けんありて。口くち利りあり。と。戒かいめ。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。あはれは。

夢枕十竹齋卷之七

七





却聖緒とあげて途は統の罪を中と。只我儘なれども。虚をさ  
 ぶるの微意。他者の用をりつと。己を責るふあり。且終は  
 四國の光景。ちりめおの色を滅め。中の闘を滅め。後よびを滅む。  
 童子ホらよらるせよ。統で益るよといふも。小補するふあり。  
 仁者よ誦念仏あり。亦唄頌目あり。且証鼓をりつてられを  
 囉と。そのと戲譚よ似れども。冥福を祈る功德ハ一なり。我  
 儘もちひより出づ。彼豈然るらんや。彼豈然るらんや。

夢想兵衛胡蝶物語卷之五

